

提携米通信

2012年7月号・黒瀬農舎



年々パートさん集めが難しくなってきた手取り除草

6月は好天で稲も元気です。
草も元気で草取りに奮闘です。

5月も寒く悪天候の日が多く今年の田植えも6月5日までかかりました。

でもその後は、気温は低いですが、近年にない好天が続き、遅れていた稲の生育もだいぶ取り戻してきたようです。

この時期作業の中心は「草取り」です。

昔の米作りは、1戸の農家が耕す水田は1畝（1町歩）程度が限界でした。

これは、田圃の耕起や田植え、稲刈り収穫が、人力や牛馬に頼っていたことでもあります、一番の原因になっていたのが「草取り」でした。

当時は、田植えが終われば一息入れる間もなく夏までずっと、どの農家も子供含めた家族総動員で朝から晩まで草取り作業に没頭でした。

「米作りは、草取り也」が現実だったです。

ところが、現在の日本の稲作農家は、9割以上が「兼業農家」です。

1畝や2畝のお米作りは、現在では勤めながらの「日曜百姓」で十分です。

除草剤が使われるようになったことで「兼業農家」が生まれたのです。

また、現在では有機栽培でも、トラクターを始めとした農業機械や、利水施設の開発向上と共に、雑草の発生を総合的に抑制するノウハウを駆使するので、除草剤がなかった時代の「それこそ死にもの狂い」と言って過言でない昔ほどの除草労力は要らなくなりました。

とは言っても、我が家の規模でも、除草剤を使わない米作りは、6月、7月、8月の3ヶ月の間で延べ400人程度の人力が必要です。

こうした中で、有機栽培に取り組んでいる仲間農家の最近の頭痛の種は、草取り作業に来てくれるパートさんが年々激減していることです。

数年前までは、一日に20人から30人のパートさんを頼むことができましたが、今年は多くても一日に10人余り集めるのが精一杯です。

雑草の発生を抑制する肥培管理の徹底や鴨の活用などで、現在の労力を半減以下にすることが我が農舎の喫緊の課題になってきたようです。

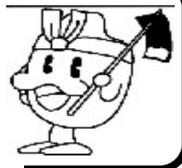
提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

ライスロッジ大潟 代表 黒瀬 正

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887



E-mail: akita@kurose.com Web:

提携米 黒瀬農舎

検索

